

## ■平成29年度第13回（第281回）都市経営戦略会議結果概要

【日 時】 平成30年1月31日（水）午前10時50分～午前11時20分

【場 所】 政策会議室

【出席者】 市長、高橋副市長、松本副市長、水道事業管理者、教育長、都市戦略本部長、総合政策監、都市局長

【議 題】 大宮駅グランドセントラルステーション化構想[案]について

### < 提 案 説 明 >

大宮駅グランドセントラルステーション化構想[案]について、都市局から次のような説明があった。

- ・ 大宮駅グランドセントラルステーション化構想（以下、「GCS 構想」と言う。）は、大宮駅周辺地域戦略ビジョンを上位計画に、大宮駅を中心としたターミナル街区的まちづくりの具体化を図り、大宮及びさいたま市の存在価値を飛躍的に向上させることを目的に策定するものであり、市民・鉄道事業者・行政等が取り組む「個別の整備計画」の共通の指針としての役割を担う。
- ・ 検討体制として、平成28年度に「大宮グランドセントラルステーション推進会議」（以下、「推進会議」と言う。）を設置し、その下部組織として「基盤整備推進部会」と「まちづくり推進部会」の2つの部会を設置して検討を行っている。
- ・ これまで推進会議において、大宮の目指すべき姿と取組の方向性を定めた整備方針案を整理した後、部会での検討を重ね、具体的な取組内容や実現のための方策をまとめた GCS 構想[骨子案]を整理した。
- ・ 今後の予定としては、3月の推進会議で GCS 構想[案]として整理した後、7月の策定に向けて、シンポジウムやパブリックコメントを実施していく予定。
- ・ GCS 構想の整備方針については、国や社会経済の動きからみた3つの大宮の役割を整理した上で、ビジネスから防災までの9つの整備方針を整理し、具体的な取組内容として、「都市機能」、「歩行者ネットワーク」、「駅前空間」、「道路ネットワーク」、「駅機能」の5項目にまとめたところ。
- ・ 「都市機能」については、広域的な業務・商業機能の集積を図ることや都市再生緊急整備地域指定のメリットを活用すること、大宮ならではの要素を都市のブランド力として発信すること、環境や防災機能も強化することを取組の考え方とし、①東日本の交流拠点に相応しい都市機能の導入、②都市機能誘導方策の活用、③大宮の個性、風格と品格を醸し出す景観の形成、④環境負荷の低減に向けた先進的な取組、⑤大規模災害を想定した防災まちづくりの5点を具体的な取組内容と定め、開発街区の検討の深度化や権利者意識の醸成、まち全体の調和に向けたルールづくりなど

を、構想策定後に検討すべき事項として整理した。

- ・ 「歩行者ネットワーク」については、ターミナル街区とその周辺のまち全体を見据えた歩行者ネットワークを構築することや中央通路に集中している人の流れを「対流」させること、大宮の特徴である路地空間を活かすことなどを取組の考え方とし、①駅東西を結ぶ新たな東西軸の整備、②個性ある路面店や飲食店が連なる「賑わい交流軸」の形成、③大宮を象徴し快適に歩ける「シンボル都市軸」の形成、④路地空間の界限性を意識した開発の促進の4点を具体的な取組内容と定め、東西通路の位置づけ、幅員などや民地内空地の確保方策、歩行者空間・デッキ等の整備手法などを、構想策定後に検討すべき事項として整理した。
- ・ 「駅前空間」については、駅とまちを結びつける交流空間の確保や利便性、安全性に優れた交通基盤を整えること、大宮の顔として風格や品格を感じる個性ある景観を形成することなどを取組の考え方とし、①多様な交流を促す交流広場の新設整備、②広域交通結節点に相応しい交通基盤の再整備、③駅前空間の一体性を高めた顔づくり、④自転車利用環境整備の充実の4点を具体的な取組内容と定め、広場の位置づけや事業手法等の精査やまち全体の調和に向けたルールづくり、自転車動線のあり方などを、構想策定後に検討すべき事項として整理した。
- ・ 「道路ネットワーク」については、市街地開発事業等による自動車交通量の増大への対応、歩行者中心の移動環境の整備、不必要な自動車流入による交通渋滞の抑制などを取組の考え方とし、①道路ネットワークの強化・拡充、②交通需要マネジメントの展開の2点を具体的な取組内容と定め、将来交通量の推計と整備する路線の抽出、事業採算性の検証、開発計画やまちづくり等との整合、フリッジ駐車場の具体化方策、自動車交通の集中、錯綜に対応した「地域ルール」の策定・運用等を、構想策定後に検討すべき事項として整理した。
- ・ 「駅機能」については、広域交通結節点として、より安全で便利な鉄道利用や乗り換えを実現すること、まちへの回遊を促進し、災害時にも対応できるよう東西通路の整備に合わせた乗り換え利便性の向上を図ることなどを取組の考え方とし、①東西通路の整備に合わせた駅機能の高度化を具体的な取組内容と定め、東日本の玄関口にふさわしい駅のあり方、利便性を考慮した駅の乗り換え改善、鉄道上空利用のあり方、導入すべき公的な機能などを、構想策定後に検討すべき事項として整理した。
- ・ 実現のための方策については、多岐に渡る取組に対して地元、鉄道事業者、市が密接に連携して継続的に実施していくこと、整備効果や事業展開、関係地権者等との合意形成等の視点から、整備パターンを決定すること、「まちづくりガイドライン」の策定及び運用、立体都市計画制度等の活用から重層的な利用を図ることや市街地開発事業を適用していくこと、エリアマネジメントの仕組みを構築していくことの5つを整理している。
- ・ 今後のスケジュールとしては、平成29年度中にGCS構想[案]をまとめ、平成30年度にパブリックコメントを実施した上で、GCS構想を策定する予定。
- ・ 構想策定後は、実現のための方策に掲げるまちづくりのルールの検討やスタディパターンの絞り込み等、事業化に向けた具体的な検討を進め、平成30年度末に事業

性や各地区の合意形成等を鑑みながら実現案をまとめ、平成 32 年度から都市計画決定に向けた手続きに入れるように取り組む。

- ・ また、大宮駅東口周辺公共施設再編による連鎖型まちづくりとも連携しながら、構想の実現に向けて取り組む。

#### < 意見等 >

- ・ 自転車の駅前への乗り入れについてはどのように想定しているか。
- 基本的に駅前広場への乗り入れは考えておらず、ターミナル街区の外縁部に駐輪場を配置していく想定。
- ・ 基本的には、この GSC 構想[案]を定め、様々な方の御意見をいただき、再度検討を行って、最終的な GCS 構想を策定してくということによいか。
- そのとおり。

#### < 結果 >

- ・ 都市局発議の大宮駅グランドセントラルステーション化構想[案]については、原案のとおり了承とする。

#### < 会議資料 >

(資料 1) 大宮駅グランドセントラルステーション化構想[案]について

(資料 2) 大宮駅グランドセントラルステーション化構想[案]